

1869(明治 2)年 西園寺公望(学祖)立命館創始(1)

1900(明治33)年 中川小十郎「私立京都法政学校」を創立(2)

1901(明治34)年 広小路へ移転(3)

1904(明治37)年 専門学校各による「私立京都法政大学」への改称(3)

1905(明治38)年 西園寺公望より「立命館」の名称継承の承諾を得る(3)

1913(大正 2)年 財団法人「立命館」を創立

1914(大正 3)年 「私立清和普通学校」を創立

1919(大正 8)年 財団法人「私立立命館大学」・私立清和中学校を「私立立命館大学」に改称

1922(大正11)年 大学各による「立命館大学」(旧制)への昇格

1922(大正11)年 立命館中学、北大路へ移転開始(1)

1945(昭和20)年 米川博、学長に就任(10)(11)

1948(昭和23)年 学校教育法による「立命館大学」(新制)設置

1951(昭和26)年 財団法人立命館を「学校法人立命館」へ組織変更

1952(昭和27)年 立命館神山中学校 高等学校、立命館夜間高等学校を廃止し、立命館中学校 高等学校に統合(1)

2006(平成18)年 広小路より衣笠キャンパスへの移転・一拠点完成

2007(平成19)年 現在の衣笠キャンパスへ移転

1988(昭和63)年 深草学舎へ拡充移転・男女共学化

1992(平成 4)年 国際平和センター設立(11)

1994(平成 6)年 びわこ・くさつキャンパス(BKC)開設、理工学部拡充移転

1995(平成 7)年 立命館大学慶祥高等学校設置

1998(平成10)年 経済学部・経営学部BKCへ移転

2000(平成12)年 立命館ソフト太平洋大学(APU)創立

2003(平成15)年 立命館宇治中学校開校

2006(平成18)年 立命館朱雀キャンパス開設(5)(7)

2007(平成19)年 立命館宇治中学校開校

立命館中学校 高等学校

立命館宇治中学校開校

立命館宇治中学校・高等学校

立命館朱雀キャンパス開設(5)(7)

立命館山高等学校設置

立命館小学校設置(1)

立命館守山中学校開校

立命館慶祥中学校・高等学校



「立命」というのは中国の古典『孟子』の「尽心(じんしんしん)の一節にある「孰寿(じくじう)を俟(ま)つは、命を立つる所以(ゆえん)なり」からとったもので、「人間には、若死にする人もあれば、長生きする人もあるが、それはすべて天命で決められていることである。だから生きていく間はわが身の修養(勉強)に努めて天命を待つのが人間の本分を全うすることなのである」という考えです。

全うするための場所を意味しています。

(裏面マップ11)

### 立命館学園の構成

<b>立命館</b>	<b>立命館大学</b>	
<b>朱雀キャンパス</b>	<b>衣笠キャンパス</b>	<b>びわこ・くさつキャンパス</b>
<b>立命館大学大学院</b>	<b>大学</b>	<b>大学</b>
・法務研究科(法科大学院) ・経営管理研究科(経営大学院) ・公務研究科(公共政策大学院)	・法学部 ・国際関係学部 ・文学部	・経済学部 ・理工学部 ・生命科学部 ・スポーツ健康科学部
<b>立命館アジア太平洋大学</b>	<b>大学院</b>	<b>大学院</b>
<b>大学</b>	・法学研究科 ・国際関係研究科 ・文学研究科 ・言語教育情報研究科	・社会学研究科 ・政策科学研究科 ・応用人間科学研究科 ・先端総合学術研究科 ・映像研究科
・アジア太平洋研究科 ・経営管理研究科		・経済学研究科 ・経営学研究科 ・情報理工学研究科 ・生命科学研究科 ・ナノロジーマテリアル研究科 (MOT大学院) ・スポーツ健康科学研究科
	<b>立命館中学校・高等学校</b>	<b>立命館宇治中学校・高等学校</b>
	<b>立命館慶祥中学校・高等学校</b>	<b>立命館守山中学校・高等学校</b>
	<b>立命館小学校</b>	

立命館慶祥中学校・高等学校

立命館小学校

立命館大学 衣笠キャンパス

立命館 朱雀キャンパス

立命館大学 大阪・いばらきキャンパス (2015年4月開設)

立命館アジア太平洋大学

立命館守山中学校・高等学校

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

立命館中学校・高等学校 (2014年9月長岡京に移転)

立命館宇治中学校・高等学校

**立命館東京キャンパス**

**立命館大阪梅田キャンパス**

**地域拠点オフィス「立命館プラザ」**

立命館プラザ京都 立命館プラザBKC  
立命館プラザ札幌 立命館プラザ名古屋  
立命館プラザ神戸 立命館プラザ福岡

**立命館アジア太平洋大学**  
〒874-8577  
大分県別府市十文字原1-1  
TEL 0977-78-1111(代表)

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス  
〒525-8577  
滋賀県草津市野路東1-1-1  
TEL 077-561-2617  
(BKC地域連携課)

立命館アジア太平洋大学  
〒874-8577  
大分県別府市十文字原1-1  
TEL 0977-78-1111(代表)

# 立命館と歩く京都

- 学園創立110周年のあゆみをたどる -

創立期の京都法政学校(清輝楼)

R  
RITSUMEIKAN

### 立命館人物伝

京都の名門家に生まれた中川小十郎は、1869年、御所の西園寺邸に私塾「立命館」を創設します。当時著名な学者・文人を賓師(教師)とし、多くの若者が集まりましたが、活発な議論をする塾生に不安を感じた京都府によって、わずか1年間で塾の閉鎖を命じられます。その後約10年間フランスに留学しますが、帰国後政治家として活躍し、文部大臣や外務大臣、さらには内閣総理大臣を2度にわたり歴任しています。政界を退いてからは最後の元老として名を馳せ、1905年、中川小十郎が立命館の名の継承を願い出ることを喜んだ西園寺は「立命館」の匾額を贈り許諾しました。

現在の亀岡市馬路町に生まれた中川小十郎は、立命館の前身、京都法政学校の創立者です。東京帝国大学法科(現、京都法政学校)の創立者です。1893年文部省に入り、文部大臣となった西園寺公望より文部大臣秘書官に抜擢され、京都帝国大学の創設を担当しました。続いて、1900年、勤労者のための夜間学校「京都法政学校」を上京区東三本木の清輝楼を仮校舎として創設し、翌年広小路に移転します。立命館の名は、1913年に大学と中学の校名となり継承されました。その後中川は、実業界でも活躍し貴族院議員も務めますが、1944年に亡くなるまで終生立命館の校長・館長・総長を務めその発展に尽くします。

米川博は山口県玖珂村(現、岩国市)に生まれました。京都帝国大学を卒業し講師、助教、教授と歩みますが、1933年の京大事件で学問の自由・大学の自治を守るため奮闘しました。京大を去りその間講師を務めた立命館に戦後の1945年、学長として就任します。戦争の深いつまみの中で、憲法と教育基本法に基づき「平和と民主主義」を教学理念として掲げ、1949年から1969年と20年におたり立命館の総長として学園の復興と振興にあたりました。米川博が社会に開かれた大学を目指す。市民を対象として1946年から開始した「立命館土曜講座」は現在も継続され、2014年3月末で、3,087回となりました。

創立者 **中川小十郎** 1866 1944年

学祖 **西園寺公望** 1849 1940年

名譽総長 **米川博** 1892 1977年

### 立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、「孟子」の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえ、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

コミュニケーションマーク

立命館では、社会との連携による学園づくりを更に強化していくとともに、立命館学園の校友、在校生、受験生や父母の皆様、教職員等、すべての学園関係者の「心をひとつ」にするために、新たにコミュニケーションマークを制定しています。

コミュニケーションマークのデザインは「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間」という立命館憲章でうたっている人間像をイメージしています。

学校法人 **立命館**

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL 075-465-8209(立命館 史資料センター準備室)  
<http://www.ritsumeikan.ac.jp/archives/>

2014/4 5,000

# 立命館ゆかりの地 散策マップ

## 立命館小学校

〒603-8141  
京都市北区小山西上総町22番地  
TEL 075-496-7777(代表)



## 立命館大学 衣笠キャンパス

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
TEL 075-465-8149(衣笠キャンパス事務課)

## 立命館 朱雀キャンパス

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1  
TEL 075-813-8137(総務課)

## 【京都市内】

### 1 立命館創始の地(市バス・烏丸下長者町停留所下車)



京都御所・蛤御門東南の白雲神社付近は、学祖・西園寺公望の私邸だった場所として知られています。1869(明治2)年、気鋭の青年公卿西園寺公望は、ここに私塾「立命館」を開きました。現在は、「西園寺邸跡」と記された標柱が建てられ、西園寺邸跡ならびに白雲神社の案内文には立命館を創設した地であることが書かれています。

### 2 立命館草創の地(市バス・河原町丸太町停留所下車)

東三本木通丸太町上ルにあった清輝楼は、京都法政学校開校時の仮舎だった場所です。1997年まで大和屋旅館として営業を続けていましたが、現在は記念碑のみが残っています。2階の大広間には毎夕若者が集まり、飯台を机に、京都帝国大学教授を中心とする講師陣の講義に耳を傾けたといえます。

### 3 立命館学園発祥の地-広小路キャンパス跡(市バス・府立医大病院前停留所下車)

広小路河原町西入ル北側の現・京都府立医科大学敷地は、1901年(京大法政学校時代)以来、1981年に衣笠キャンパスに全学部が移転するまで、立命館大学広小路キャンパスがあった場所です。現在ここには日展参事で本学校友の今井凌雪 筑波大学名誉教授の揮毫による「立命館学園発祥之地」記念碑が建てられています。

### 4 立命館小学校-北大路学舎(北大路バスターミナル下車)

立命館小学校が位置する北大路烏丸にはかつて立命館中学、高校の学舎がありました。1905年に広小路に私立清和普通学校が創設され、1913年に立命館中学と改称、1922年にこの地へ移転します。1988年に深草学舎に移転するまでの歴史を刻みました。立命館小学校校門脇の石碑にある「培根達支(ばいこんたし)」の揮毫は、西園寺公望によるものです。

「培根達支」・・・中国の哲学者である朱子が編纂した「小学」の「題辭」(序文)の一節「建学立師、以培其根、以達其支」に基づいています。その意味は「人生を豊かにし、学問を大成させるには、生き方の根本、学びの基礎・基本を若いうちにしっかり養い育てることが重要である」というものです。

## 【朱雀キャンパス】

### 5 朱雀メモリアルホール



朱雀キャンパスを正面から入ると、西園寺公望の揮毫による「立命館」の扁額と学園創立者・中川小十郎像を据えたホールがあります。ここには、立命館の歴史を知ってもらえるよう、ホールの壁を利用した年表や、VTR「立命館のあゆみ」や各キャンパスの発展の歴史などの情報を収納したタッチパネルを設置しています。

### 6 西園寺公望のレリーフ



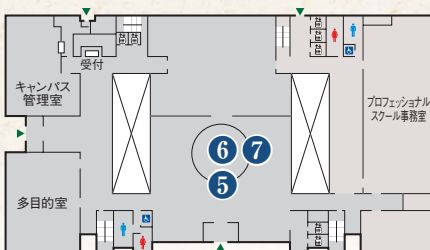
メモリアルホール内にある西園寺公望のレリーフは、かつて衣笠キャンパス中川会館(現・至徳館)3階の役員応接室に設置されていました。このレリーフは、2001年3月1日に西園寺公望の別荘「坐漁荘(ざぎょそう)」の近くにある静岡市清水区興津の清見寺(せいけんじ)で見つかった西園寺公望石膏像のレプリカです。

### 7 孟子像



「立命館」の由来が中国の古典「孟子」の尽心章(じんしんしょう)の一節であることになんで、中国と立命館の友好の証として2005年に中国政府(国务院)新聞弁公室より寄贈されたものです。朱雀キャンパス開設時に、衣笠キャンパスの図書館からこの朱雀メモリアルホールに移設されました。

## ■ 立命館 朱雀キャンパス 1F



## 【衣笠キャンパス】

### 8 創立者・中川小十郎の墓(等持院墓地内)

衣笠キャンパスの研心館と有心館の奥に、等持院墓地があります。この墓地の中に学園創立者・中川小十郎の墓があります。中川小十郎は、1900(明治33)年に「私立京都法政学校」(後の立命館大学)を創設しました。中川はこの「立命館」の名称と「自由と清新」の学風を西園寺から受け継ぎ、今日の立命館の礎としました。中川は1944年に亡くなり、広小路・北大路・衣笠それぞれの学舎ごとで告別式が行われました。中川の出身地・亀岡市馬路町には、50回忌に建立された顕彰碑があります。

### 9 「立命館」の扁額(図書館内)

図書館内の1階には、西園寺公望による「立命館」の扁額が据えられています。この扁額には「明治二年秋九月二三日」の日付があり、西園寺公望が邸宅内に開いた私塾「立命館」の塾名を自身で揮毫したものです。

### 10 「理工学部発祥の地」の石碑(図書館前)

図書館入り口の左手の植え込みにある石碑は、1938年立命館高等工科学校の設置に伴い、その校地として当地を取得したことを表すものです。以後、1949年の理工学部(新制)設置から1994年理工学部がBKCに移転するまでの45年間、理工学部の学生が衣笠で学んでいました。

### 11 わだつみ像(国際平和ミュージアム内)



1953年12月8日に「わだつみ像」は立命館大学に設置され、平和と民主主義のシンボルとなりました。しかし、68年から激しくなった学園紛争のなかでわだつみ像は破壊されました。その後再建され、現在は国際平和ミュージアムのエントランスに設置されています。

### 12 「未来を信じ未来に生きる」の石碑

学園創立80周年と衣笠移転完了を記念し、1980年に建立されました。この碑に記された銘文は、名誉総長だった末川博が揮毫したものです。「平和と民主主義」を教育理念に、学生をこよなく愛し、未来を担う青年たちに大きな夢を託した末川博の精神を現在、そして未来に伝えていきます。

### 13 レリーフ「法の理念」(存心館内)

存心館1階・玄関脇の壁に設置されている、末川博の筆によるレリーフ。法学部の衣笠キャンパス移転と法学部創立80周年を記念して、1981年に制作されました。法学部に学ぶ学生たちに、「法の理念は正義である」とのメッセージを贈っています。

### 14 末川記念会館

戦後、立命館総長・立命館大学長として学園の復興と振興に尽力された末川博名誉総長の偉業・遺徳を偲び、1983年に開館。書齋を復元して遺品とともに展示したメモリアルルームや200名収容のホール、会議室などを備えています。末川博の提唱で1946年から始められた市民向け「立命館土曜講座」は、1階のホールで毎土曜日に開かれています。また、2階には京都地方裁判所から移設した松本記念ホール陪審法廷が設置されています。

### 15 西園寺記念館

学祖・西園寺公望の自由主義・国際主義の精神を受け継ぎ、真の国際人を育成するという理念の実現のためこの名が冠せられ、1988年に国際関係学部の基本棟として新設されました。同学部が2000年9月に衣笠キャンパス・恒心館に移転するまで学生の学び舎として親しまれました。現在は、衣笠セミナーハウスとして使用されており、立命館 史資料センター準備室も置かれています。西園寺記念館の門脇に設置されている石燈籠は、1988年の竣工に際して校友から寄贈されていたもので、かつて「駿河台邸」と呼ばれた東京・神田の西園寺公望の邸宅に置かれていました。

### 16 立命館大学国際平和ミュージアム



立命館大学は戦後、日本国憲法の基本理念でもある「平和と民主主義」を教学理念としています。国際平和ミュージアムはこの教学理念を発展させ、具体化する教育・研究施設として、1992年5月に開館しました。社会開放施設として、多くの修学旅行者や市民に利用されています。2005年4月にリニューアル・オープンし、来館者数は2014年3月末で89万人を迎えました。

### 17 立命館その由来の碑



2000年に立命館創始130年・学園創立100周年を記念して、立命館大学父母教育後援会から寄贈されたものです。碑には、日展参事で本学校友の今井凌雪筑波大学名誉教授により、「立命館」の名前の由来になった「孟子」の尽心章(じんしんしょう)の一節が揮毫されています。

### 18 中川小十郎ゆかりの泰山竹(だいさんちく)



西園寺公望が清水港に近い興津の「坐漁荘(ざぎょそう)」に常住するようになる1919年当時、台湾銀行に赴任していた中川小十郎は近くの旅館を常宿とするようになり、その庭園に台湾から持ち帰った珍しい竹(泰山竹)を寄贈・移植しました。中川小十郎ゆかりのその泰山竹は、2002年初夏に衣笠キャンパス中央広場にある東屋の西側に移植されました。

### 19 以学館前の石畳

以学館前に敷き詰められた板石は、旧京都市電の軌道敷に使われていたもの。大小が不揃いな花崗岩製で、アスファルトにはない温かみが魅力です。ちなみに、京都市の市電は日本初の路面電車として、バリより2年早い1895年に運行し1978年に廃止されました。

### 20 衣笠球場の名残を示す電柱表札

衣笠キャンパスにはかつて「衣笠球場」があり、スポーツの殿堂として市民から大変親しまれていました。現在球場の名残を示すものは、「衣笠球場」の表札が付けられた電柱だけです。(左側の写真は1965年の衣笠キャンパス)

## 立命館 史資料センター準備室では資料を収集しています。

立命館 史資料センター準備室では、立命館の歴史に関係する文書、写真をはじめ、各種資料の収集、整理、保存を行っています。資料に関する情報をお持ちの方、ご協力いただける方は、下記までご連絡ください。

学校法人 立命館 立命館 史資料センター準備室  
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL 075-465-8209  
<http://www.ritsumei.ac.jp/archives/>